
今日から「お」のつく自営業?

Ponkichi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今日から「お」のつく自営業？

【Nコード】

N5339Y

【作者名】

Ponkichi

【あらすじ】

高校入学当日、家を出てわずか2歩で不慮の事故によって死んでしまう。そして次に目が覚めたとき目の前に天使がいた。その天使の気まぐれで陰陽師に転生させられてしまう。

処女作なので多少稚拙なところもありますが楽しんで読んで頂けたら幸いです。感想もお待ちします。

序章（前書き）

処女作なので多少稚拙な部分もありますが楽しんで読んで頂けたら幸いです。よろしくお願いします！

序章

産まれて15回目の春休み、俺は明日から始まる高校生活をおもいつきり楽しもうと決意し眠りについた……。

「あつさだー！ー！！！」

珍しく朝6時に起きてご飯を食べてシャワーを浴びて、そしていつも以上に丁寧に髪をセットして準備完了！

「いつてきまーす！」

家を出てわずか2歩。それは酷くゆつくりとみえた。こちらに突っ込んでくる大型トラック、響き渡るブレーキ音。ドーンッ！！！その瞬間俺は宙を舞っていた。そして次に目が覚めたとき俺は雲の上に寝ていた。

「ここはどこだ？確か俺はトラックにふっ飛ばされて……ってえー！て事は俺は死んだのか？傷は、血は？じゃあここは天国？」

「それは少し違うわ小童めっ！」

うわー、なんかいかにも天使ですっていうような面倒くさそうな奴が出て来たー。こういう奴には関わらないに限る。目を合わせない様にして逃げた方が良いな。

「なんじゃ、そのあからさまに嫌そうな顔は、ここは不運によって命を落とした者を転生させる場所じゃ。お主はどんなところに転生

したいんじゃない？

1、魔法使いや騎士となってモンスター

と闘う世界

2、陰陽師になって妖や悪霊たちと闘う世界

3、今まで通りの世界だけど人間以外の生物
になって生きる

さあどれがいい？」

まともな選択肢が・・・無い。なんで今まで通りの世界を人間として生きるって言う選択肢がないんだ。

「そんなのきまっておろう。そんな普通な人生つまらんでわないか
！」

心の中読まれたー！ってかその人生を生きるのは俺だ。

「その位ぞうさもないわ！さあ早く選ぶのじゃ！」

3は、もし魚とか虫とかになったら嫌だし、

1は、なんかありきたり過ぎるし…。

「じゃあ、2でお願いします」

「本当にいいんじゃない？一度決めると変えられぬぞ？」

本当にいいのか俺…………？

「ああ、もう、うじうじおって面倒くさいのぉ、もう行ってしまえ。さらばじゃ！」

ええー！！！！心の準備が！その瞬間足元の雲が消えて地上へおちていった。

序章（後書き）

このような作品を読んでいただきありがとうございました。これからもよろしく願いします！感想をお待ちします。

入学式は波乱万丈？

転生してから6年、俺は小学生になった。今の名前は霧雨智樹。きりさめともき入学式にトラウマがある俺はあまり気乗りはし無かったが、学校へ行った。無事に学校へも着いたし学校でもこれと言ってなにもなかった。ただ一つ陰陽師に転生したからなのか学校にはこんなにも居るのかと言う位。視える。そんな事はさておき、今人生最大の危機にひんしている。視るからに悪霊っぽいのが4 5体、鬼の形相で俺を追ってくる。

「ふうー、セーフ何とか逃げ切れた」

やっと家に帰ってこれた。そう、家の敷地内には入って来られないのだ。流石、陰陽師の家だ。まあ家が寺だと言うのも関係していりのかもれない。しかも、家は陰陽師としては日本で3大陰陽師に入るらしい。因みに流派の名前もそれっぽい。じゃあ、流派の名前の紹介と俺の現状も紹介しよう。龍天流尚禅寺式陰陽術35代目正統継承者 霧雨智樹だ。そう正統継承者つまり、次期党首なのだ。故に闘いからは逃げられない訳だ。

「智樹帰ってきたのか！」

この人は俺の父親の霧雨龍夫。つまり現党首だ。別に昼間から家に居るのは無職な訳では無い、寺の住職もしているだけだ。

「うん！」

俺はあくまで小学生らしく返事をした。

「学校はどうだった？楽しかったか？」

「うん！」

あくまで小学生らしくだ！

「そうかそうか、それは良かったな。話しは変わるがな、智樹も小学生になったんだ、そろそろ修行を始めてみないか？」

俺の気持ちは転生する前とは違いこの時を待ち侘びていた。まあぶっちゃけ、転生してしまったものはどうしようも無いので思いつ切り楽しもうと開き直っただけなのだが。それに、悪霊どもから逃げっ放しもしかくだ。

「うん！修行やりたい！」

「いいんだな？相手は悪霊だけじゃないんだぞ、妖も相手にしなければならんだぞ！」

そんなことは分かっている。むしろ、望むところだ！

「うん！それでも修行したい」

「じゃあ、今度の土日から修行開始だ。あと修行は、土日だけだから平日は友達と遊んでて良いゾ」

「ありがとう、お父さん」

フツ、これで俺も陰陽師だぜ！

入学式は波乱万丈？（後書き）

こんな作品を読んでいただきありがとうございました。続きも読んでいただけると幸いです！！

感想がユーザーのみになっていてすみませんでした。感想をお待ちします！

党首の背中！

早速、修行…と行きたいが今日はまだ火曜日だ。ああ〜早く土曜日来ないかな。そう言えば、学校で友達が出来たんだ。先にそつちを紹介しておこう。俺の友達は今のところ順に、佐藤拓馬、水沢夏海、岩崎健、濱岡紀子の4人だ。全員1年生だ。まず最初に紹介したいのは、水沢夏海だ。とりあえず、第一印象は可愛いってことだ。あと、性格は活発で思いやりがある良い子だ。多分、8年後良い意味で化けるな。次に、佐藤拓馬。こいつは俺らの中でリーダー的存在で、典型的なガキ大将だ。次は、岩崎健。こいつは頭が小1にしては、なかなか切れるヤツだ。最後は、濱岡紀子だな。こいつは、何と言うか…顔は可愛い方なんだが、少し根暗と言うか…そう物静かなんだ…うん。

因みに俺は、そこそこイケメンで、クラスのムードメーカーといったところだ。この顔に産まれて来てよかったー！入学式当日に告白もされました。まあ〜ふったけどな！俺は夏海以外の奴は興味無し！

そして今はみんなで学校の近くの公園にきている。

「とーもき君！かくれんぼしよう」

はい。もちろんやります！貴女がしたい事〃俺のしたい事ですから！

「智樹はサッカーしたいよな！」

拓馬〜調子に乗ってんじゃねー！俺はかくれんぼがしたいんだー！

「いや、僕はかくれんぼがいいな」

「まあ、智樹が言うならそうするか」

ふっふっふ、見たかこれがムードメーカーの力だぜ！

そして4時過ぎまで遊んで帰った。まあみんな小1だし妥当なところだろ。

「ただいまー！お父さん。今日は友達と公園で遊んで来たんだよ」

「そうか、それは良かったな。イジメとかされてないか？大丈夫か？」

「うん！大丈夫だよ。ありがとうお父さん」

「智樹、やっぱりお前は良い子だな（涙）」

やっぱり親バカは扱いが楽でいいぜ。

「お父さん、僕、お父さんのおんみょうじゅつ見たいな」

「え、困ったな。どうしようかな」

ふっ、無邪気な俺の可愛いさでイチコロさ
無垢な俺の純粹な眼差しビーム

ビーム発射中

「しょうがないな」特別だぞ」

ふつ、楽勝だぜ。

「まず最初に、陰陽術つてのは種類があるんだ。それは大きく分けて、結界術・紙鬼神術・使鬼神術の3つがある。どんな術かと言うと、

結界術

自分を包めば相手からの攻撃を防御出来るし、相手を包めば結界の中に閉じ込める事が出来る。術者の強さによって結界の強さも変わる。また、ある程度極めた者は光の屈折を結界によって変えれば姿を見え無くする事も出来る。

紙鬼神術

紙に呪を書いて使う。霊力をこめるか、霊を憑依させて使う。霊力をこめる場合は従わせる必要は無いが意思がないので自由に動く様にするのは大変だ。逆に、憑依させる場合は霊を従わせる必要があるが、低級霊を使えばある程度簡単に出来る。

使鬼神術

霊や神獣、妖などと契約して使役出来るようになる。契約の仕方は、まず召喚するか探すかして使役したいモノを見つける。そして、倒して（滅してはいけない）従わせるか利害の一致により契約出来る。ただし、倒して従わせているモノは自分の心にブレがあると契約は破られ暴れだす。

つと、まあこんなところだ」

なるほど、どうせなら強い使鬼神がいいな。

親父の使鬼神はどんな奴だろうか？よし、純粹ビーム発射

「お父さんの使鬼神見たいな。ダメ？」

「わかった。可愛い息子の頼みならお父さん一肌脱いじゃうぞー」

よっしゃー！成功したぜ！

「しっかり、見てるんだぞ。あつ言い忘れてたけど、霊や霊獣、妖、何にしても霊体のときはいいが、具現化させる時は血を捧げなければいけないからな」

親父は他の人にみられないように姿を隠す結界を張り、親指の先を嚙んで呪文を詠唱した。

「我に忠誠を誓いし僕契約に従い我に仇なす者を葬れ！
死をも司りし地獄の番犬 ケルベロス！！！」

その瞬間、目の前の空間が割れ黒い炎と共に5メートルは有ろうかと言う黒い犬が現れた。

党首の背中！（後書き）

このような作品を読んでいただきありがとうございました。感想を
お待ちしております！

続きも楽しんで読んでいただけると幸いです。

父の背中！（2）

「死をも司りし地獄の番犬 ケルベロス！！！」

その瞬間、目の前の空間が割れ黒い炎と共に5mは有ろうかと言う犬が現れた！しかも、頭が3つある。カッコいい！！！！

日本3大陰陽師の現党首と言うのは分かってはいたが、これ程までとは。しかも、ケルベロスなんて伝説級のモノを使鬼神にしているなんて。いつもの親バカな親父とはまるで別人だった。ほとんど素人の俺でもこの妖気の凄さがわかる。気を抜いたら吞まれそうな程の妖気と殺気だ。これでも少しも力を出していないのだろう。

『この小僧がお前の息子か』

ケルベロスは想像どうりの低く重厚な声だった。声だけでも俺の体を硬直させる程だ。

「そうだ。なかなか良い原石だろう？」

『ふむ。何か強大な力を感じるな。ただ、お前とは異質な力だ。』

もしかして俺って才能あり？でも、親父とは異質な力ってのは気になるな。

「強大な力とはどんなものだ」

そう、そこが知りたいんだ。

『今はまだ分かん。そして、この力を扱い切るのはお前でも難しいだろうな』

なんだよそれー。親父でも扱い切れるか分からないなんて一体どんな力なんだ！

「わかった。ありがとう、もう戻っていいぞ」

『では、また会おう小僧！』

「僕は小僧じゃ無い、霧雨智樹だ」

『ふつ、覚えておこう智樹さらばだ！』

ケルベロスは竜巻を纏い消えた！ただ、おれは竜巻よりもケルベロスに名前を覚えてもらったことの方が嬉しかった。

「どうだ智樹、お父さんの使鬼神はカッコいいだろう？」

この親父からは考えられ無い位かつこよかった！

「うん！お父さんカッコいい！」

俺はあ・く・ま・で！子どもらしくいった。

「そーだろう？お父さんカッコいいだろう！」

本当にさっきの親父と同一人物が疑う位デレデレになっている…。土曜日よこい早く修行だ！そして、早く超カッコいい使鬼神を手に入れるんだ！

――
しかし、私にも扱えない程の力とは、一体。
智樹にはどれほどの力が眠っているというのだ。

まさか…いや、そんなはずは……。

父の背中！（２）（後書き）

このような稚拙な作品を読んで頂きありがとうございます！これからも応援のほどよろしくお願いします。

修行開始？

今日は待ちに待った修行の日。希望を膨らませていた…だが現実はそのなにごくはなかった。

「智樹、修行の時間だぞ？」

俺が楽しみにしていたこともあり親父はとても楽しそうに俺を起こしに来た。俺は寝ぼけながら時計をみて驚いた。まだ、朝の4時半だった。

「お父さんまだ、眠いよ」

俺は飛び切り可愛く言った。だが息子との修行を楽しみにしていた親父には通じなかった。

「何を言っているんだ、修行は朝の澄み切った空気の中でやるから良いんだぞ！さあ早く起きるんだ」

俺は諦めて布団から出た。…まだ眠い。今すぐ寝ろと言われれば何時でも寝れる。

「今日は基本的な霊力操作の修行だ！まずは霊力操作の種類を説明しよう。霊力操作には2種類あるんだ。まず1つ目は、霊力を高める事。2つ目は、霊力を物理的な力に変換する事。

霊力を高める

霊力操作の基本中の基本で、どんな術にしても、物理的な力に変換するにしてもこれが出来なければ何も出来ない。やり方は集中する、

ただそれだけだ。

靈力を物理的な力に変換する

これは、いわゆる衝撃波の様なものだ。また、結界術にも通じるものだ。

今日は特に靈力を高めることをやってみよう。」

「えー、使鬼神術はー？」

俺は早く使鬼神術をやりたいんだ！

「まだ、早いからダ！メ！力も無いのにそんなことをしたら靈力を全部持っていかれて死ぬぞ」

マジて？ヤバイじゃん。なら仕方ない基本からやるか…。

「まず、やり方を説明しよう。一番大事なのはイメージだ。体の中から力を膨らませるイメージだ。そして、ある程度膨らんだら体の外に出して体に纏うイメージだ。」

簡単じゃんそれ位。

「じゃあ、手本を見せるぞ。フウー」

親父が息を吐いた。それとともに親父の周りを取り巻く空気が靈気を帯びていった。

「やってみろ」

俺は親父がやった様に目をつむった。そして、体の中から力を膨らませるイメージをした。けど、いっこうに膨らんだ感じがして来ない。再度イメージを固めたがやはり駄目だった。

「お父さん、出来ないよ」

「はっはっは！そんなにすぐには出来ないよ。今月中に出来たとしても早い方だよ」

クッソッ！今日中に何としても出来るようになってやる！もう1回だ。体の中から膨らませる、体の中から膨らませる…

……ふわっ！

んっ！今なにか体の中で膨らみかけたような気が。よしっ、もう1回だ。

ドクンッ！

！！！やっぱり何か膨らみかけている！

「まさか…智樹誰かに教わったのか？」

親父のこの反応はやはりできかけているんだ！

「誰にも教わって無いよ」

「お姉ちゃんにもか？」

そっ、言い忘れていたが俺には姉がいる。今年から中学に上がって

部活に励んでいるため今日は修行は出来ないらしい。姉の力はうまくれつき強く、産まれた直後の産声で病院中の悪霊を追い払ったくらいだ。

「うん、誰にも教えてもらって無いよ」

「そうか、スゴイな」智樹は。お姉ちゃんはここまで出来るようになるまで2週間かかったぞ」

そうか、やっぱり俺って才能あるのかも？

再度挑戦…

ドクン！！！！

さっきより大きくなっている！

これを絶えず膨らませながら体の外に纏わなければいけないなんて！

気が付けば俺は夕方まで霊力を高める修行をしていた。だが、結局出来たのは少し膨らませて保つぐらいだった。でも、親父から言わせると驚異的なスピードらしいが。次の日も夕方までしていたが、たいして変わりはないかった。

—————

やはり、あの成長スピードは普通では無い。まずあり得ないスピードだ。やはり…でもそれ以外考えられない。

そして、数ヶ月が立ち俺は靈力を高める修行はマスターした…と思
っていた。だが、ほんの第一段階に過ぎなかった。

「次の修行は、これを瞬時にする修行だ！前はゆっくり息を吐いて
いたが短く吐くんだ。行くぞッ　　フッ！」

親父の周りの空気が靈気を帯びた。だが、前と違うのは、前はじわ
じわ変わる感じだったけど、今は一気に変わった。ようするに、戦
うときに隙が出来にくいと言うことだ。しかし、ただ高めるだけで
無く体の周りに纏いどこまで高めるか瞬時に調節しなければならな
いのだ。しかし、今は夏休みだ。

一週間が立ち毎日、朝の4時半から夕方までしていたおかげで、何
と無くだが出来るようになった。やはり、驚異的なスピードらしい。
あとは、夏休みが終わるまでに仕上げるだけだ。

修行開始？（後書き）

このような作品を読んで下さりありがとうございました！感想もお待ちしてます。

次からは多少の年月が流れます。分かりにくい文にならないように気をつけてがんばります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5339y/>

今日から「お」のつく自営業？

2011年11月20日13時19分発行